

町田市議会議員・納税者主権

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野2-2-2 2

☎042-724-2171

「保守の会」派室

自宅042-795-7361



AO入試高校生の支援(1)

この始まりは、以下の次第でした。その照会方法は、現在学生の有り様に相応しくメール文によって問い合わせをするという対応でした。しかし、その問い合わせが突然かと言うと、生徒は町田市内の高校に通うことで、私のことをある程度以上に知っての依頼だったわけです。

その生徒さんの要望趣旨は、大学入試に際して、自分は一般入試でなく、「AO入試」を求めているというものであり、その合格のために論文を作成して提出することが必要だということでした。〇×の学科試験でなく、本人が書いた論文を評価されて合否が判定されるわけです。その課題とされた作成論文テーマは、「都市の社会問題や地域課題に対してシェアリングエコノミーを利用した解決策の提案をする」という趣旨のものでした。これは人口減少や高齢化時代にあたって、ごく一般的な課題になっているのですが、その実施例は少なく、ましてや具体的な成功例などはまず聞かない課題になっています。私は自分が考えていく上でも興味があるものだと理解し、直ぐに協力をする作業に取り掛かりました。(続く)



地域問題対応なら市議が一番

そもそも、「論文作成」の協力者として「議員」に求める発想がどこから出てきたのか、不思議でした。答えは、その生徒さんが何に対しても偏見を抱かず、社会問題や地域問題の解決策ならばそれは「自治体議員」だと素直に考えてくれたためでした。おそらく、全国で初めてのケースと思いました。



翻って、ネットで「AO入試」を検索すると、「プレゼン講師による個別指導AO入試対策専門の〇〇塾」というものから、有名な個別大学名と合格者数を挙げた)「AO入試合格実績 日本1位」をうたった「△△△ゼミナール」などが多数あり、それぞれに親切丁寧な感じに聞こえますが、合格のためには高額な受講料が予想されるものでした。

私は現役大学生の多数をインターンシップで受け入れており、その「帰国子女」を初めてとしてAO入試や推薦によって入学した学生も大勢受け入れてきました。

これまでは、大学生を社会体験研修として大勢受け入れてきたものですが、高校3年生の「進路対応」支援も、自分の政策目標である「若者育成の街」づくりの中に入れてたいと思っています。(続く)

★ 政党無所属・市議会は保守の会 mail : yoshidaben@gmail.comURL <http://j-expert.jp/> 動画 <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

メール送信

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ(自宅)

町田市議会議員 **3回連続トップ当選**

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



左上はブログ
右上は新規の
ビジュアルサイト



インターン生募集中

研修レポート⑧林夏碧

町田市文化交流センターで開催されている町田茶道会のお茶会に出席させていただきました。お茶会では茶菓子と御抹茶が配られ、それをいただくだけではなく、部屋に飾られている掛け軸や生け花にも目を向けることも楽しみ方の一つであると中学の茶道の先生はおっしゃっていました。その教えを思い出し、掛け軸に目を向けてみると【如人飲水冷暖自知】という禅の言葉が書かれていました。意味の「人は水を飲んで、水が冷たいか温かいかを自分で知る」というものですが、自ら積極的に知る、知ろうとする姿勢が大切だと教わり、今後の人生で大切にすべき言葉だなと思いました。現代を生きる私たちはインターネットで言葉を検索すればすぐに情報を得られます。しかし実際に体験するわけではないので実態が分からないことが多いです。それをアルバイトやボランティア、このインターンシップのように、自分から動くことで情報をより深く理解することができたり、新たに情報を得たりすることができます。これからのインターンシップも自分から学ぼうとする姿勢を大切にして活動していきたいと思いました。



昭和女子大学1年生 林 夏碧(第42期生)

研修レポート⑨林夏碧

町田市立国際版画美術館にて開催されている「ヨルク・シュマイサー 終わりなき旅」展を鑑賞しました。ヨルク・シュマイサーはドイツに生まれ、日本の大学で学び、その後京都・中国などのアジア諸国、オーストラリアなど世界中を旅しながら版画を作成していった版画家です。また、風景以外でも女性が年齢を重ねて変化していく様子を描いた版画なども描いており彼の作品は多岐にわたっています。



昭和女子大学1年生 林 夏碧(第42期生)

数多くある作品の中で印象に残ったのは、清水寺の四季ごとの変化を表している『京都清水寺』です。春は桜が咲いている様子、夏は雨が降っている様子などその季節ごとの変化をはっきりと描いていました。普段あまり気にすることのないものが別の視点から見ると美しいものに見えるのだなと思いました。また、多くの作品に共通していることにその国ごとのモチーフが風景に描かれていることも印象的でした。風景画という作者が見ている風景をそのままを描くというイメージがありますが、彼の作品では仮面や女性などをその国独自の画風で描いていて自分が訪れた国の文化に敬意を抱いていることが分かりました。

★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧ください。